

2025 10/14

No.2244

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



疾走する馬上からの的を射る「流鏑馬神事」が9月16日、鎌倉市の鶴岡八幡宮で2年ぶりに行われ、人馬一体の妙技に観客から拍手が起こった。昨年^{やぶさめ}は練習中に落馬事故が起き、中止になった。



視点点描	3
選挙は最後まで分からない	
特集	4
「静かな退職」とは ～企業はどのように向き合っていくべきか～	
経済双眼鏡	8
ドラマチックな舞台裏 ブレトンウッズ協定	
よんななエコノミー	9
たかが入場料、されど入場料	
中カツ！通信	10
金価格の下落が必要なワケ	
蝶花楼桃花のNEWS箸休め	11
「こういう男は 気をつけないと」	
くらし2025	12
体は優等生、でも心は？ 日本の子ども、高い自殺率 ユニセフ「幸福度調査」	
かながわTODAY	14
9月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2025年11月定例講演会

11月19日(水)

午後1時30分～3時

崎陽軒本店(横浜駅東口)

講師：ありあけ取締役会長

藤木 久三氏

演題：`なるほど！感動カンパ
ニー、への挑戦 ～逆境
を生き抜くプラス発想～

◇2025年12月定例講演会 (シンポジウム・会員交流会)

12月15日(月)

午前11時～午後1時30分

ロイヤルホールヨコハマ(横浜
市中区)

講師：共同通信社政治・経済・
外信部長など

演題：2026年の動向を読む

◇2026年1月定例講演会

1月15日(木)

午後1時30分～午後3時

神奈川新聞社12階大会議室(横
浜市中区)

講師：文芸評論家 三宅香帆氏

演題：なぜ働いていると本が読
めなくなるのか

【お知らせ】会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



選挙は最後まで分からない

川崎市長選が12日に告示された。現職で4選を狙う福田紀彦氏のほか、元市議ら複数の新人が名乗りを上げている。3期12年の福田市政への評価が主な争点だ。

12年前、福田氏が初当選を果たした市長選では、川崎支局長として現場責任者（キャップ）を務め、後輩記者と取材を重ねていた。いまとなつては自分の取材力の低さ

や、世論の動きを見る目のなさを恥じるばかりだが、選挙戦終盤まで福田氏ではなく、対抗馬の元官僚候補が当選するだろうと高をくくっていた。

両候補の支援体制の差が非常に大きかったからである。元官僚候補は現職市長の後継候補との位置付けで、自民党や公明党、民主党など主要政党が軒並み推薦し、労

働団体の連合神奈川も支えるなどまさに「盤石の体制」を敷いていた。川崎市議60人のうち8割程度が応援していた。

対する福田氏は2度目の挑戦とはいえ、組織は脆弱（ぜいじやく）。しかし、待機児童ゼロと中学校給食導入といった大都市の子育て世代が求める政策を訴えると共に、「官僚市長か市民市長か」「チェンジ」のフレーズを効果的に使ったことが市民に響いたようだ。

「楽勝ムード」だった元官僚候補の陣営も最終盤になってネジを巻き始めたが、時既に遅し。蓋（ふた）を開けてみれば、福田氏と元官僚候補の票差は2858票、得票率ではわずかに1ポイント以下という大都市の選挙ではまれに見る大接戦となった。取材現場の責任者として「当選確実」を打つ役目も担っていたが、なかなか差がつかず、紙面降版の締め切り時間に間に合

うのか、ヒヤヒヤしたことを覚えている。選挙は最後まで分からない、ということをあらためて実感した選挙でもあった。

「艦隊と手こぎボートの戦い」――。当選後の福田氏のコメントがふるっていたことも印象に残る。組織の大きな相手を「艦隊」に、自らを「ボート」に例えていた。徒手空拳で戦い、勝利した自負の表れだったのだろう。

さてその後、対立していた主要政党も支持に回った福田氏は、4年前は歴代最多の46万票超の圧勝で3選を果たした。いまでは福田氏陣営が「艦隊」である。人口減が進む中、川崎市は15年に京都市、19年には神戸市を抜いていまや政令市で6位の人口を誇る。155万人都市の舵（かじ）取りを誰に任せるのか。市民の審判は26日に下される。（神奈川新聞社地域報道統括部長

鈴木 昌紹）